



いわした たつや
岩下 竜也 議員
IWASHITA Tatsuya

Q. 保育園写真販売サービス導入を

A. 写真販売システムの導入を検討

町民の皆さまから沢山の御意見を頂いている。その中には「保育園で子どもたちが何をしているのか。楽しく過ごしているのかなど、どのような様子なのか知りたい。できれば写真に撮って販売してもらえないか」との声がある。普段見ることのできない子どもの様子が写真を通して垣間見ることが出来れば、保護者の方はうれしいでしょうし、園児にとっても良い思い出になるものと考ええる。

Q 保育園では、現在、遠足や誕生日会、日常の様子などの写真を販売しているのか。また、販売方法はどのようになっているのか。

A 生活福祉部長
遠足やお泊り会などの行事、日常の様子などについては、令和4年4月から開始したお知らせ配信アプリ「キッズプラスファミリー」において配信しているが、写真の販売には至っていない状況である。

現在、保育園では、毎年1月に0歳児から5歳児までのクラスごとに写真撮影したものを販売している。

Q 写真販売システムは、インターネットを介してスマホやパソコンから写真を購入できるシステムだが、写真販売システムをどのように考えているのか。また、写真販売システムの導入の検討についての考えは。

A 生活福祉部長
普段ご家庭では見ることのできないお子様の園での様子を写真に収めておくことは、保護者の皆さまにとって、子どもの成長していく姿を知る機会になるとともに、園児にとっても振り返った時の思い出になるものと考えている。写真販売システムは、スマホやパソコンから写真の注文と支払いがいつでもでき、保護者の皆さまがご利用しやすいシステムであることから、写真販売システムの導入を検討している。

Q. 電車と地下鉄やバスの現状は

A. 新たな交通手段を考える

私たちの生活や経済の健全な発展、地域活力の向上を実現するためには、公共交通の発展は大変重要である。「公共交通」という言葉から想像されるのは、鉄道、地下鉄、バスであるが、電車と地下鉄については、過去の答弁では電車や地下鉄が来ることは考えられない。私も、実現は現実的ではないと思う。公共交通の実情については、名鉄バス、あおい交通、名古屋市営バス、とよやまタウンバスが運行され、名古屋駅・栄・小牧・西春・春日井とまさに縦横に行き渡り、バス停も30以上も整備されている。とよやまタウンバスの課題である利便性と採算性とのバランスは大変難しい問題であり、維持していくためには町の負担額を減らす必要がある。また移動手段

の確保について持続的かつ効果的なものとするためには地域の実情を最も把握している地域の方が主体となって検討を進めることが重要である。

Q とよやまタウンバスの負担額、町民一人当たりの負担額は。

A 産業建設部長
令和4年度の決算額では約4330万円であり、町民一人当たりでは約2730円となっている。

Q 将来のビジョンはありますか。

A 産業建設部長
利便性の確保と、財政負担とのバランスを考慮しながら、既存のタウンバスにとらわれず、新たな交通手段の活用を含めて改善を図っていく。

二十歳の集い

議案 PICKUP

一般質問

委員会視察